

図書館ニュース



「IFLAからの贈りもの」

学長 早坂 三郎

平成29(2017)年11月には、本学図書館にとって誠に喜ばしいことがありました。それは国際図書館連盟(IFLA)が、世界43の国や地域の図書館員により選ばれたそれぞれの国と地域を代表するとしておきの絵本365冊を揃え、これらを国立国会図書館国際子ども図書館から本学図書館が採択を受け借用することができましたので、本学の学生のみならず広く地域の皆様にも閲覧頂ける機会を得られたということです。見知らぬ国、見慣れない装丁や色彩の絵本を実際に直に手に取って読むことができるまたとない幸運に恵まれ、またこの機会を提供できる栄に浴することができたことを嬉しく思っています。

これらの絵本を通じて多様な文化理解の礎として頂きたいということが展示の趣旨です。そこでこの機会を記念して本学教育研究センター主催の公開講座を2回にわたり開催致しました。第1回目の11月18日(土)には、料理研究家の土井善晴先生をお招きし、「世界の料理と和食」のテーマで講演して頂きました。和食の素晴らしさと特色は言うに及ばず、文化や風習と和食との相互影響並びに宗教的そして生活上の礼儀や作法の意味と食すること、さらには作る人のおもてなしの心について、改めて気づくことができました。また、世界各国の料理と和食との対比のもとに料理の素晴らしさに対する認識を深めることができました。料理の背景にある原材料をはじめとして、いろんな方々の努力と工夫、戴くことの有難さがひしひしと感じられたご講演でした。

次いで第2回目は、11月23日(祝・木)にイラストレーターで絵本作家である永田萌先生をお招きし、「夢みる力」のテーマでご講演頂きました。絵本の持っている魅力と不思議な力、絵本の構成と制作過程や文章と絵の構成の妙など、初めて聴く絵本の世界についてのお話でした。また、先生自らの「マッチ売りの少女」の読み聴かせを楽しませ

て頂きました。アンデルセンの生い立ちと重ねて玩味すると、思わず目頭が熱くなるのを禁じえませんでした。

お二人の講師の先生の優しい語り口調に引き込まれ、また熱心にお聴き頂いたご参加の皆様方のお蔭をもちまして、会場は温かく和やかな雰囲気になりました。

さて、肝心の世界の絵本についてですが、拝見しますと、見開き一杯に描かれた動物の顔や目に突き刺さるような色彩の花々、あるいは私も白と黒で塗ってしまう牛が、何と白と赤の模様になっているなど、自分の拘りや捉われに気づくと共に色づかいと構図の豊かさに驚かされました。その絵本を、たとえばお母さんの膝の上に座って読んでもらうことにより、安心して文章からのイメージと絵からの想像をふくらませ、時には抽象的内容を具象化させ、実際には体験できないことが空想できるのです。

S.フロイドは無意識の世界を考え出しましたが、C.G.ユングはその無意識には個人的無意識とより大きな領域である集合的(普遍的)無意識の世界を考えました。個人的無意識とは、個人が経験・体験した感情や思考、そして記憶などにより形成されていますが、集合的無意識とは家族的無意識や童話・昔話・神話など古来より語り継がれ・伝えられた内容や地域に共通する文化的無意識が人類に共通する内容となったもので、故に他者や多くの人たちとコミュニケーションでき、理解し合えるのです。自然や四季に美しさを感じたり、天空に超越性を感じるのは、われわれに共通する一面といえましょう。

いずれにせよ、絵本やいろんなお話を聴き、思いを馳せたり、イメージを抱いたり、共感したり同じ世界を共有すること、また時には反発することが、ひいてはさまざまな事象の理解や言語的・思考的広がりや役に立つと考えられます。まさに絵本には、「すごい力」があると実感できた今回の「IFLAからの贈りもの」でした。

『世界の料理と和食』

土井 善晴氏(料理研究家)

日本の食は世界から注目されているが、何に注目しているのか？

今では日常的にお酒も飲み、白いご飯も食べる。「ハレ」が日常寄りになっている。昔は「ハレ」と「ケ」の場に応じて、家庭料理とよそいきの料理があった。一汁三菜を出すようになり、日本料理は手がかかって日常はできない傾向になった。

お膳とは何か？お膳の中は清らかな世界。縁が高いのは結果になっている。どこへ持って行ってもそこが食卓になる。韓国でも中国でもお箸は使うが、横に置くのは日本だけ。お箸も一つの結果。「いただきます」と声をかけて食べる。

「汁飯香」の「ご飯」「味噌汁」「漬物」、日本人にとっての大事な三つの食べ物。人間が作ったものでない。神様からいただいたもの。

自然観は世界中一緒じゃない。アジアのモンスーン地帯では災害にあっても、自然は再び豊かな恵みをあたえてくれると考える。中東の砂漠地帯では、灼熱の太陽で死を連想する人もいる。ヨーロッパでは雑草も牧草地として利用する。日本は人間よりも自然が常に上だが、ヨーロッパは自然をコントロールできるという考え方を持っている。

スペイン、バスクのサンセバスチャンという美食の町では、お肉だけを焼いてそのまま味わうのではなく、オリーブ油にひたした赤いパプリカを刺して初めて料理となる。人間が作ったもの、自然をコントロールしたものが料理で、お肉そのものは料理ではない。お刺身をそのまま出しても料理じゃない、とヨーロッパの人は考える。

世界中で日本だけが手に器を持って食べる。お米は神様だから両手を使うことが大事。お茶碗を手で持って、触感を感じることが大事。美意識の動き方が全然違ってくる。

日本では自然の姿のままが一番良い。何もしたくないことを良しとする。漁師さんが鯛をとって活き締めをしたら、トラックで運ぶ人も気をつけて生きた状態のまま運んでくる。ただ切っただけでもきれいと感じるのは、そこに至る仕事ぶりが全部見えてくるから。

ヨーロッパの場合、結果が大事。きれいは鮮度。常に変化するもの。日本の料理は、プロセスの中のある瞬間を食べるということ。そのために心を尽くす。

きれいは日本人にとって、一番重要で美味しいものを作る道標。私たちは相手にあわせて切り方や炊き方、季節ごとに器などを工夫してきた。漆器とかガラス器、様々な磁器も古い土ものも家庭の食器棚には入っている。縄文の時代も今も、同じように自然との距離感が変わっていない。

ヨーロッパの場合、自然と人間の間にキリスト教が入る。直接じゃないから、自然との距離感が違う。

日本人の「しんか」の仕方はさんずいへんの深化。深めるということ。ヨーロッパはクリエイティブ。

日本人が日本人らしさとは何か、どうするべきかわかるとシンプルにできる。一つのメッセージとしては一汁一菜。「汁飯香」ご飯と味噌汁を土台としておいて、楽しみとしての季節のお料理…と分けて考えると、日常忙しいのにいっぱいお料理を作らなくても良い。ここという時にお肉を焼いたりして、楽しみと日常をちゃんと区別する。これが和食のスタイルであるということを残しておく。

一汁一菜という考え方を基に広げていったら良い。

(記録/図書委員会)



『夢みる力』

永田 萌氏(絵本作家)

私は西宮から少し北西の加西市で生まれ育った。

私が描いている絵は、「ファンタジー絵画」。現実世界の隣にあるかもしれない夢の世界、というものを描いている。

幼少期に特別な絵画教育を受けたことはないが、夢を想像する力は故郷や両親、地域の人たちから育てられた。「夢みる力」とは「想像力」。「想像力」があるかないかで人生の豊かさは違ってくる。

絵の勉強をきっかけに京都に住んで50年。京都の持つ普遍性がじっくり一つのテーマに取り組ませてくれている。

今、京都市立「子育て支援総合センター・こどもみらい館」の館長をしている。生後半年から就学以前の方が対象。赤ちゃんのための絵本の読み聞かせ教室では「お膝に抱っこして、お母さんも赤ちゃんも同じ時間、同じページを見るようにしてください。」「どんなに下手でもいいから、大きな声を出して読んであげてください。」とお願いする。赤ちゃんにとって世界中で一番安心できる場所はお母さんの膝の上。一番好きな音はお母さんの声。声は体からも伝わる。これが心の成長の第一歩。

絵本制作は、絵も文も両方手掛ける「絵本作家」と、文章作家と組み、絵だけを担当する「絵本挿絵画家」とに分かれる。



絵本はページ数が少なく、文章作家は選りすぐりの言葉を集めて文章を綴る。私たちは、その文章に添う絵を描く。

恩師「アンパンマン」の作者やなせたかしさんは、私に「カラーインクの魔術師」という名前をつけてくださった。カラーインクは非常に難しい。展覧会

でカラーインク作品を展示すると、ダメージを受け褪色してしまう。これまで培った技法を離れて、褪色の心配が低いアクリル絵の具で描きはじめた。アクリル絵の具は画期的で、表現範囲が広がった。必要とされるところで、画材を使い分けている。

これから有名な物語を絵本にしたものを読み聞かせで見ていただく。「マッチ売りの少女」絵/永田萌、文/立原えりか 作者はハンス・クリスチャン・アンデルセン。

私たち絵描きは、文章作家の何が伝えたいのかを理解し、それに添わないといけない。理想的なのは作家に会えることだが、アンデルセンは100年以上も前に亡くなっている。アンデルセンはデンマークのオーデンセで生まれ育った。お母さんは洗濯女、お父さんは靴職人の最下層階級の出身。

「マッチ売りの少女」には、父親による虐待や子どもの貧困が描かれている。「おばあさんに抱かれて天の国へ昇っていきましよ。」このお話はそれで終わってない。次の日の朝、女の子は死んでいる。「誰もマッチを買ってくれませんでした。」それは女の子が見えてないから。目にとめる人がいない。誰も何もしなかった。

社会の無関心。アンデルセンが言いたいのは、そういうことじゃないかと私は解釈をした。アンデルセンにできるだけ心を寄せて、私の想像力を総動員して、この絵を描こうと決めた。

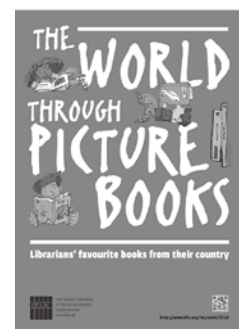
絵本は一見、子ども向けのように思うが大きな人生の示唆に富むもので、私たちに教訓と反省と、何か立ち止まって気づかせる力を持っている。お年を召した人にも、脳と心の活性化のために役立つと言われている。

このような成り立ちで、文章作家は文を作る、そして絵本作家は、その文章作家の思いに寄り添って絵を描いている、ということを中心に据えていただいて、深く読んでいただければ、この仕事をする者としてこれ以上の幸せはない。

(記録/図書委員会)



展示会★世界の絵本が甲子園短期大学にやってくる！ 『絵本で知る世界の国々ーIFLAからのおくりものー』



平成29年11月13日(月)～12月1日(金)まで、図書館において「展示会★世界の絵本が甲子園短期大学にやってくる！『絵本で知る世界の国々ーIFLAからのおくりものー』」が開催されました。

大学図書館としては全国でも初めての展示会で、学院内だけでなく地域の方々も興味を持ってくださり、のべ16日間で567名もの来場がありました。

この絵本展には、1972年に創設された図書館および情報サービスに関する世界最大の国際組織であるIFLA（国際図書館連盟 The International Federation of Library Associations and Institutions）が大きく関わっています。

IFLAには図書館協会・図書館・関連機関など約140か国・1300以上もの機関および個人会員が加盟しています。またテーマ別分科会は40以上あり、図書館に関する様々な課題に取り組んでいます。その一つである児童・ヤングアダルト図書館分科会では、2010年から日本の提案で、世界の子供たちが絵本を通じて国際理解を促進することを目的とする「絵本で世界を知ろうプロジェクト（The World Through Picture Books）」に取り組んできました。このプロジェクトにより各国の図書館員は、その国の代表的な絵本を10冊ずつ選定して本のリストを作りました。

※絵本は次のような基準で選ばれています。

- 対象年齢は0～11歳
- その国の体表的な絵本で長く読み継がれている、あるいは読み継がれると思われるもの
- その国で出版された、その国のオリジナル作品
- その国の言語で書かれ、翻訳ではない作品
- 読み聞かせ、子どもと一緒に読むのに適したもの
- 前向きなメッセージを持つもの

IFLAはこのリストをもとに、世界各地で展示会を開催するため、43の国と地域の図書館員が選定した合計365冊のセットを2組作り、1組は日本の国立国会図書館国際子ども図書館に、もう1組はフランスの国立図書館に寄贈しました。

IFLAの加盟機関である国際子ども図書館では、絵本を直接手に取って読める展示会セット「絵本で知る世界の国々ーIFLAからのおくりもの」として、2013年度以降、日本国内や海外（アジア・オセアニア地域）の機関に貸し出しを行っています。

<平成29(2017)年度>

京都府立久美浜高等学校 学校図書館・高知こどもの図書館
甲子園短期大学附属図書館
国際協力機構（JICA）沖縄国際センター図書資料室（予定）

<平成28(2016)年度>

豊橋市中央図書館・えびの市民図書館
神奈川県立地球市民かながわプラザ・加美町小野田図書館

<平成27(2015)年度>

取手市ふじしろ図書館・秦野市立図書館・枚方市立中央図書館

<平成26(2014)年度>

静岡県立図書館・茨城県立図書館
陸前高田こども図書館 うれし野こども図書室分館 ～ちいさいおうち
大船渡市立図書館・岩手県立図書館・ゴスフォード市立図書館（オーストラリア）

<平成25(2013)年度>

鎌倉市中央図書館・韓国国立子ども青少年図書館（韓国）・仁川市スホン図書館（韓国）

国際子ども図書館から展示会セットを借り受けて開催した絵本展でしたが、これだけ多くの種類を揃えた絵本展はまだ少ないため、来場された方はとても喜んでくださいました。（8頁にアンケート結果を掲載しています。）

北米や欧州の絵本は日本で翻訳発行されているものも多く、双方を見比べる楽しさがありました。翻訳されていないために初めて読んだ（見た）アフリカや中南米の絵本は、日本の絵本にはない大胆な構図や珍しい色遣いがされていました。言葉はわからなくても、風土や食べ物、生活習慣などが絵から伝わり、まさしく絵本を通じて世界に触れることができた展示会でした。



海外では日本とは異なり二か国語教育がされている小中学校も多く、マダガスカル（フランス語とマダガスカル語）、セネガル（フランス語とウォロフ語）、モーリシャス共和国（クレオール語と英語）などでは二つの言語が並列されているのも興味深いことでした。

展示資料の発行国一覧（43の国と地域）

北米		アフリカ	
アメリカ合衆国	10	アルジェリア民主人民共和国	9
ケベック州（カナダ）	10	カメルーン共和国	4
中南米		セネガル共和国	11
アルゼンチン共和国	11	ナイジェリア連邦共和国	5
グアドループ（フランスの海外県）	6	ベナン共和国	7
コロンビア共和国	9	マダガスカル共和国	9
ハイチ共和国	10	マリ共和国	5
ブラジル連邦共和国	10	南アフリカ共和国	2
大洋州		モーリシャス共和国	8
オーストラリア連邦	10	レユニオン島（フランスの海外県）	5
ニュージーランド	10	欧州	
アジア		イギリス	10
インド	10	イタリア共和国	9
シンガポール共和国	9	エストニア	10
大韓民国	10	クロアチア共和国	8
日本	10	スイス連邦	10
中東		スウェーデン王国	7
カタール国	8	スペイン	7
トルコ共和国	8	スロベニア共和国	9
レバノン共和国	5	セルビア共和国	10
		デンマーク王国	10
		ドイツ連邦共和国	10
		ノルウェー王国	9
		ハンガリー	10
		フィンランド共和国	6
		フランス共和国	9
		ルーマニア	11
		ロシア連邦	9



参照：国立国会図書館 国際子ども図書館＜展示会・イベント＞ホームページ展示会趣旨
<http://www.kodomo.go.jp/event/exhibition/tenji2017-01.html>

前図書館長・木本好信先生の後を受けて、4月から図書館長をやらせていただくことになりました。図書館長の仕事はいろいろ考えられますが、もっとも大切な仕事は学生の皆さんに本に親しんでいただくことではないかと思っております。

私たちは日頃さまざまなことを考えたり判断したりしています。考えたり判断したりするためには物事を理解する必要があります。物事を理解するためには知識が必要です。理解もしないで適当に判断するということが日常生活ではありますが、それだと判断間違いをしてしまうことが多くなります。しっかりと知識を身に付けるには本を読むことが欠かせません。

こんなことをいうと、知識なんかインターネットでちょっと調べればすぐに分かるんだから、本を読む・本で調べるなんて面倒なことなんかする必要はない、何を古臭いことを言ってるんだと言われるかもしれません。しかし、それは間違いだと思います。頭の中に入っている知識と、調べないと出てこない知識はまったく違います。頭の中に入っている知識は生きていて、たえず変化しています。新しい知識が入ってくれば、それによって変わります。経験によっても変わります。このような生きた知識が私

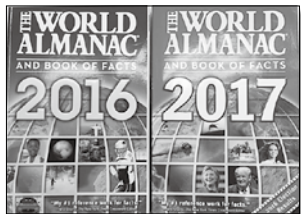
ちの判断を支えてくれます。

もちろん、インターネットなんか使わなくて良いと言っているわけではありません。むしろどんどん有効に使ってください。こんな便利なものを使わない手はありません。しかし、特徴や限界があるということも知っていただく必要があります。インターネット上の情報は断片的なものが多い、真偽が確かでなく責任の所在が明確でないものも多い、便利すぎて頭の中を素通りしてしまうといったことです。そういう特徴や限界を踏まえながら利用していただくのが良いのではないのでしょうか。

本は知識を得るためだけのものではありません。楽しみのためのものでもあります。むしろまず楽しいということを感じていただくのが先かもしれません。私は絵本や児童書が好きです。そこにあるのは想像、空想の世界です。書いてあることはウソといえどウソばかりです。でも楽しい、それでいいのではないのでしょうか。

前期の特別演習の授業で「本に親しむ」という話をしましたが、そのしばらく後に、「先生の話聞いて読んだら面白かった、今こういう本を読んでいる」と、階段ですれ違った後、わざわざ戻ってきて報告してくれた学生さんがいました。今年うれしかったことの一つです。

推薦図書 「The World Almanac and Book of Facts 2017(世界年鑑)」… 屋島 哲也(准教授)



この世界年鑑¹は、一年間で一番利用した本です。英語の辞書より利用回数が多く、アメリカ、中東、ECの動きから、MLBの「イチロー」の成績、リオ五輪の入賞者の成績や記録など、気になることは、

まず「年鑑」を見ることにしています。世界情勢や統計を調べる際の、最初の資料として活用しています。

2017年度版はアメリカ大統領選挙特集です。「なぜトランプは勝利したのか」、「アメリカはどうなるのか」等の関心事項を考えていると、大統領選挙に関する制度や仕組み、各州・各都市の候補者の得票数などの詳細なデータも目に入ってきました。また、芸術や文化、政治や経済、スポーツなどのいろんなジャンルの統計があり、過年度と比較ができるようになっていきます。アメリカの貿易や犯罪、世界の宗教や気候変動など、いろんな情報を与えてくれます。

インターネットサイト²でもこのような情報を調べることができます。しかし、デジタル(PC版)よりもアナログ(製本版)の方が頭に残るという先入観があり、ページ³をめくっては、別の項目に惹きつけられています。

この本を開くと、突然リンカーンやケネディーの就任演説が目に入ったり、過去の音楽や芸能界の有名人一覧に、黒澤明や三船敏郎の名前が掲載され、現在活躍中の人物欄には、渡辺謙の名前がありました。アメリカの出版物に、日本に関することが記載されているのを発見すると、ほっとします。何となくいい気分です。

内容は全部英語です。専門用語や特別な言い回しがありますが辞書を頼りに興味ある項目を読みすすむと、次第にその深い世界に引き込まれます。ある州の人口を調べると、さらに出生率、死亡率、男女比、人種、宗教などを次々に知りたくなり、いろいろな項目にあたっていると、あつという

間に時間が経過しています。

この「年鑑」とのつきあいも、40年近くになります。海外に出るときは、これを飛行機の中で読んでいました。長時間のフライトでも全く退屈しません。アメリカに限らず、外国の詳細な記事や統計が載っています。各国・各地域の情報、気候、産業、人口、歴史などをまず調べて、挨拶やスピーチの話題に採り入れます。「年鑑」から知識や情報を得ることで話し相手との距離を縮めてくれたりもします。

2018年度版が手に入りました。今年度版は、この年鑑の刊行150年記念特集号です。日本の明治維新の年から現在までの世界の情勢が特集として載っています。

この本は、本学の図書館には残念ながらありませんが、比較的年価で手に入る「知的財産」です。

アメリカの生活に関する出版物で、「年鑑」よりも詳しく説明してある本が図書館にあります。英語版ですが、どれも面白い資料集⁴です。自分の興味や関心のあることについて、日本語の情報にはない、生のアメリカが書かれていることもあります。英語の最新の知識・情報を得ることで、これまでとは違う、新しい「学び」の世界に入ってみませんか。

- (注) 1 ALMANAC: 世界各国の国政・スポーツ・娯楽などの記録・情報等を集めた年鑑・ガイドブック
2 Infoplease Free online References
3 1008ページ
4 甲子園短大蔵書
(1) 世界各国の詳しい資料
・ The CIA World Factbook 2017
(2) アメリカの日常生活の紹介
・ The New York Times Practical Guide to Practically Everything: The Essential Companion for Everyday Life
(3) 外国人向け漢字の学び方
・ Remembering the Kanji 1:
A Complete Course on How Not to Forget the Meaning and Writing of Japanese Character

長らく稽古ができていないが、剣道を始めて久しい。剣道は、技と共に心の修錬の要素が大きく、それは長く続けるほど年齢を経るほど顕著となる。高齢になって体力が衰えても若い人を相手に稽古できるのもその所以である。

剣道の心の在りようを示す言葉は数多くあるが、修錬上の四戒(驚、懼、疑、惑)と共に、「無縄自縛」という戒めの言葉がある。これは、感情や先入観で自分自身を束縛し心身の動きを自ら縛ってしまうことを言う。他人に縛られたのなら解くのは難しいが、自分で縛ったのなら自分で解けば良い。原因は自分の心の中に在る訳だから、とそう簡単なものでもない。剣道に限らず、人生においても同じことが言える。

これに関連した剣道の名著に「猫の妙術」がある。これは、佚斎樗山(いっさいちょうざん)が江戸時代(享保年間)に著した『田舎荘子』という談義本の一章であり、以下に概要を紹介する。興味のある方は原文や現代語訳された本も発行されているので読んで頂ければと思う。

勝軒という剣術者の家に大鼠が住み着く。勝軒は、飼いた猫や近隣の鼠とりの妙手とされる猫にこの鼠を捕まえさせようとするが、全く歯が立たず、自身でも試みたがだめである。そこで、並々ならぬという噂の古猫を借りてくる。見た目はどうということのない猫だが、古猫を見た鼠は萎縮し難く捕まえられてしまう。その晩、勝軒の家に猫が集まり古猫を相手に問答が始まる。猫同士の問答も面白いのだが、最後の部分が本旨となるので、詳しく紹介する。

・・・古猫の話に勝軒が、「お話に大いに悟るところがあり、その奥義を教えて欲しい。」と言うと古猫は、「私は獣であり、鼠は食すもの、人のことはわからない。ただ、剣術

は人に勝つためのものではなく、変に臨んで生死を明かにする術であると聞いたことがある。生死の理に徹し、心静かに安らかで平常心であれば、自由自在に変化に応じることができよう。しかし、この心がなければ、形が生じ、敵が生まれ、争うことにもなってしまう。そして仮に争いに勝ったとしてもそれは偶然であり、剣術の本旨ではない。敵も自分もなく、考えることなく、なすことなく、動くことなく、無心、無物でいることが肝心である。」

ー勝軒「敵も自分もないとは如何なることか。」

ー古猫「自分があるため敵がいる。自分がなければ敵もない。敵というのは、陰・陽、水・火と同じで、形があるものには必ず対となるものが存在する。自分の心に形がなければ、当然対となるものもなく、争うこともない。ものも自分も忘れ、静かに安らかに、一切の妄念を絶てば、和して一つになれる。全ては自分の心の問題であり、迷うようなことがあれば、その心が敵を助けてしまう。私が言えるのはここまで。残りは自分で求められよ。師は技を伝え、理を論すだけで、その真を得るのは自分である。これを自得、以心伝心と言う。教えというものは、自分にはあるが、自分では見ることができないところを、指して知らせるだけ。師から授かるのではない。教えることも聞くことも容易なことだが、自分にあるものを確実に見つけ、自分のものとするのは難しいもの。これが修行上の一眼目であり、覚ということである。」・・・

一刀流の秘伝書とされ山岡鉄舟が愛読したと伝えられていますが、現在でも心の在り方や人生において通じることがあると思いませんか。

現代社会において情報は、知りたいことを検索するとすぐに様々な内容とともに関連する多くの情報を得ることができるというように、とても便利になったと同時に過多になりました。いつどこで登録したかわからないところから大量に送られてくる情報、自ら発信する情報とその情報に返信された情報等、多様で複雑になり、あふれかえる情報の中から選択する力と時間が必要になりました。研究に関する情報の収集のために、本・辞書や新聞、口コミ等による情報が中心の時代から現在までの情報の量や質の激変の流れに、大波におぼれそうになりながらなんとか浮いています。大波の前、食環境とおいしさに関する研究のために、“おいしさ”に関する文献を探して多くの本や論文を読んできました。この時、本屋さんで「いま食べることを問う」という題名が目にとまりときめく感覚があり、手に取ってそっと中身を見てみました。不思議なことに、自分が調べたいことや自分の考えの根拠になること等が全部載っていて、本を読み進める度に胸がドキドキしてしまいました。本に付けた小さな付箋は50枚を超えていました。研究のため、本の作者に会っておいしさについての話をしたいと考えようになりました。情報激変の時代、作者についての情報はインターネットを用いて詳しく調べることができました。その後は自分の勇気と挑戦、周りの人々の協力により、作者の研究室で何年間か研究をすることができて、現在も“おいしさの構造解析や評価”の共同研究を続けています。

「ヒト(人間)が食品(食べ物)を食べる(摂取する)」という行動には、生きるためという基本的であり動物的な目的や価値観が根底に存在しています。その上で「ヒトはおいしい食品を食べたい」「ヒトは食品をおいしく食べたい」というように、人間が食べ物を摂取するとき“おいしい”ことが重要であり、“おいしい”情報の発信・収集を行い、時には、“おいしさ”を獲得するために行列で並ぶ時間およびお金を使います。

おいしさの定義はあいまいです。おいしい理由やおいしいと感じる原因等については時代による違いがありますが比較的表現しやすい例として、現在は「もちもちしておいしい」というような食感やテクスチャーでの表現が多くみられます。また、一般的にミシュランの星の数やインターネットの料理写真による食情報からおいしさを判断しています。総合判断としてはおいしさを大小であらわすことができます。おいしさの要素は多種多様です。脳で統合されたおいしさを要素分解することでおいしさを表現できる、数値化できる可能性があります。

以上のような“おいしさ”の研究を発展させていくことになったのは、1冊の本との出会いが多くの人々との出会いの大切なきっかけになったからと考えています。本学の図書館には、各専門分野の本が古いものから最新までそろっています。ネットの世界から飛び出してときめく本と運命的な出会いをしてください。

読書感想文優秀作

『カラフル』 (森 絵都 著/理論社)

幼児教育保育学科Ⅰ回生1組 野邊 幸夏

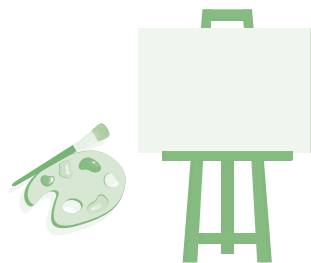
私がこの小説を選んだ理由は、表紙が可愛いというとても単純なものでした。しかし、読み始めてみるとコミカルな文体に惹かれ、いつしか小説の世界に入り込み一気に読み終わっていました。

カラフルは、前世に罪を犯した主人公のぼくが死後抽選に当たったことにより、小林真の体を借りて前世の罪を思い出すべく下界で修行を積む、というストーリーです。小林真として生活するにつれて、家族との確執、学校生活、自殺を図った真の人物像、思い出せない前世の罪など様々な困難に直面します。そして、たくさん嘆いていただちをぶつけながら、一色だと決めつけていた物事には違う色が混ざっていることに少しずつ気づいていきます。

読み終わった後、自分はどうかだろうかと考えました。ある一部分だけを見て、物事を決めつけてはいないだろうか、決めつけたとして、それを变えようと努力したのだろうかと振り返りました。きっと、たくさんの物事に対し、一部分だけを見て決めつけていただろうと思います。

そこで思い出したのは、実習中の出来事です。実習先の保育園で、インターンシップの初日、何をして良いかわからず端で立っていた私にある先生が、「自分で何をして良いか、聞いて動きなさい。」と仰っしゃいました。緊張であり他のことを考えられていなかった面もありますが、その時の私は、怒られてしまったことの一部だけを見て、助言して下さった先生を恐れ先生かもしれないと勝手に思い込み、実習が不安でした。

しかし、その時に先生に言われた言葉が心に残っていたことで、実習中、積極的に動くよう心掛けることができました。また子どもたちとの関わり方のアドバイスをしてくださったり、部分実習の指導案を何度も添削してくださったりと、たくさんご指導して頂く中で、先生の色々な顔を



見ることができ、いつしか恐れ先生だと思えることは無くなっていました。

私はこの実習中に、一色だけではない少し混じった色を見つけることができたのかもしれない。物語の最後に主人公が一步足を踏み出したように、先生の言葉を心に閉じ込めず、少しでもいいかもしれませんが実行できたことを忘れないようにしようと思います。

「黒もあれば白もある。赤も青も黄色もある。明るい色も暗い色も。きれいな色もみにくい色も。角度しだいではどんな色だって見えてくる。」という小説の一節が好きです。これから出会う人や物事、そして自分の中のたくさんの色を見つけて、受け止めていきたいと思います。

評 自分のことに当てはめて考えていますね。私も読んでみたくなりました。
良い本に出会えましたね。今回気づいた事は、これからの人生でとても大切です。決して忘れないようにしてください。



文藝春秋
文春文庫表紙



理論社
フォア文庫表紙



理論社
単行本表紙

読書感想文・課題図書より

この目録は、Ⅰ回生対象の平成29年度読書感想文・課題図書の一部です。Ⅱ回生にも読んでもらいたい本が推薦されていますのでご紹介します。

書名	著者名	発行所	分類番号
嫌われる勇氣 自己啓発の源流「アドラー」の教え	岸見 一郎 古賀 史健	ダイヤモンド社	146.1
〇に近い△を生きる 「正論」や「正解」にだまされるな ポプラ新書	鎌田 實	ポプラ社	159
置かれた場所で咲きなさい	渡辺 和子	幻冬舎	198.24
プロカウンセラーの聞く技術	東山 紘久	創元社	361.4
聞く力 心をひらく35のヒント 文春新書	阿川佐和子	文藝春秋	361.45
対話する社会へ 岩波新書 新赤版	暉峻 淑子	岩波書店	361.45
幼児期 ー子供は世界をどうつかむか 岩波新書	岡本 夏木	岩波書店	376.11
100万回生きたねこ	佐野 洋子	講談社	726.5

書名	著者名	発行所	分類番号
カラフル 文春文庫	森 絵都	文藝春秋	913.6
錦繡 新潮文庫	宮本 輝	新潮社	913.6
銀鍔の人 改版 上巻・下巻 新潮文庫	新田 次郎	新潮社	913.6
西の魔女が死んだ 新潮文庫	梨木 香歩	新潮社	913.6
困ってるひと ポプラ文庫	大野 更紗	ポプラ社	916
モモ	ミヒヤエル・エンデ 大島かおり 訳	岩波書店	940
(1ドルの価値) ／賢者の贈り物 他21篇 光文社古典	O.ヘンリー 芹澤 恵 訳	光文社	953
星の王子さま 集英社文庫	サン・テグジュペリ 池澤 夏樹 訳	集英社	953

新着図書紹介目録

この目録は、平成29年4月から9月にかけて図書館で購入したDVD3枚、CD4枚、図書120冊のうち、各学科の先生方がぜひ皆さんに読んでほしいと推薦された図書の一覧です。分類番号の見方は、館内掲示の「本の探し方」を参照してください。

書名	編著者名	発行所	分類番号
NHK新家庭科ベストセレクション 第五巻 日本と世界の食文化	<DVD>	教育図書	375.5
映像で見る 主体的な遊びで育つ子ども あそんでぼくらは人間になる	<DVD>	エイデル研究所	376.15
入園入学応援！ たのしい どうよう	<CD>	日本コロムビア	760.7
The CIA World Factbook 2017	Central Intelligence Agency	Skyhorse Publishing;	290.3
絵本で子育て 子どもの育ちを見つめる心理学	秋田喜代美 増田 時枝	岩崎書店	019.53
新・発達心理学ハンドブック 新刊	田島 信元 岩立志津夫 他編	福村出版	143
世界でひとつだけの幸せ ポジティブ心理学が教えてくれる満ち 足りた人生	マーティン・セリグマン	アスペクト	146.8
子ども学への招待 子どもをめぐる22のキーワード	近藤 俊明 編著	ミネルヴァ書房	371.45
子どもの「遊びこむ」姿を求めて 保育実践を支えるリアリティとファン タジーの多層構造	阿部 学	白桃書房	376.1
幼児体育 理論と実践 第5版 初級 日本幼児体育学会認定幼児体育 指導員養成テキスト	日本幼児体育学会 編	大学教育出版	376.157

書名	編著者名	発行所	分類番号
懐かしの昭和こども新聞 昭和38年～昭和53年編 大好きだった テレビマンガもおもちゃも大集合！	昭和こども新聞 編集委員会 編	日本文芸社	384.5
よみがえる昭和こども新聞 昭和21年～昭和37年編 貸本、駄菓子、 紙芝居、これからは“こどもの時代”だ!!	昭和こども新聞 編集委員会 編	日本文芸社	384.5
解剖生理をおもしろく学ぶ 新訂版	増田 敦子	サイオ出版	491.1
よくわかる高齢者のからだと病気 看護師・介護士のための解剖生理学 イラスト・図解	山口 潔 監修	池田書店	493.18
昭和の暮らしで写真回想法 2 家事と娯楽	鈴木 正典 監修	農村漁村文化 協会	493.75
七訂 食品成分表 2017 2巻セット	香川 明夫 監修	女子栄養大学 出版部	498.51
おもしろい！料理の科学 (世の中への扉 科学)	平松 サリー	講談社	498.53
マサさんの さあ！はじめよう 鍵盤ハーモニカ ～ピアノ・鍵盤ハーモニカの指導者 とピギナーのために～	松田 昌	ヤマハミュージック メディア	763.3
赤チェックシート付 漢字検定2級・準2級・3級 [頻出度順]問題集	資格試験対策研究会 編	高橋書店	811.2
のはらうた 1・2・3	くどうなおことの はらみん	童話屋	911.56

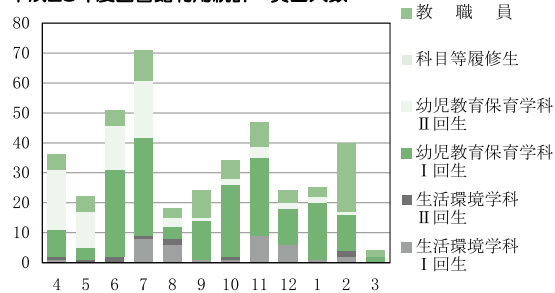
図書館利用統計・年間報告

平成28年度の図書館利用統計を報告します。開館した232日間で、のべ396名による694冊の貸出がありました。

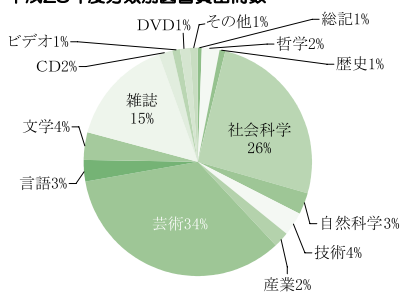
月平均にすると全体の約23%の人が図書館を利用し、一人あたりの月間貸出冊数はわずか0.4冊だったことになります。

館内で閲覧して複写（コピー）をする利用者もいますので、貸出冊数＝読書量というわけではありません。しかし全国大
学生生活協同組合連合会（東京）が2017年2月24日に発表した第52回学生生活実態調査では、一日の読書時間が「0（ゼロ）」と
答えた学生が過去最高の49.1%になり、学生の本離れが加速していることが明らかになりました。この実態調査によるとアル
バイト就労している学生の平均読書時間は22.1分、就労していない学生は30.6分、双方に大きな差はないことがわかります。
本学の学生もアルバイトに加えて実習の準備・授業の課題レポートなどやるべきことが多く、読書は後回しになっている
のかもしれませんが。しかし読書は知識を増やす一番の近道です。読書する習慣を身につけ、様々な世界に触れて人生を豊
かにしてください。

平成28年度図書館利用統計・貸出人数



平成28年度分類別図書貸出冊数



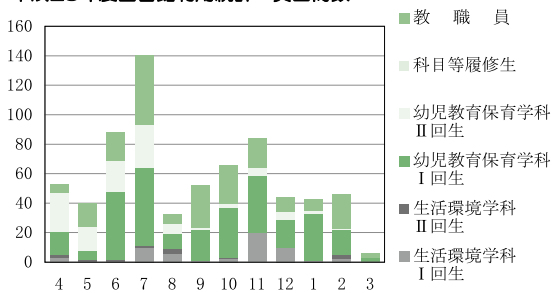
教育や福祉を含む社会
科学と絵本を含む芸
術、雑誌の貸出が多
いことがわかります。
どれも実習や課題レ
ポートに必要なジャン
ルばかりですね！



甲子園短期大学
で一番の読書家
は幼保I回生。
一カ月で約3.6冊
読んでいます。



平成28年度図書館利用統計・貸出冊数



年間利用統計を
みると、夏休み
と冬休みの貸出
がとても少ない
です。
お休み中でも長
期貸出に应运
じています。
どんどん活用し
てください！！

貸出冊数上位ランキング		
生環Ⅱ	幼保Ⅱ	幼保Ⅰ
50冊	62冊	36冊
7冊	37冊	27冊
5冊	30冊	20冊
4冊	29冊	17冊

※Ⅱ回生は1年間10ヵ月、Ⅰ回生は10ヵ月の合計冊数です。
生環Ⅰ回生はまだ1冊以上の貸出がないため、ランキング
外になっています。

読書感想文 入選者と書名

- ★優秀作 幼児教育保育学科 1組22番 野邊 幸夏 「カラフル」
 ★佳作 生活環境学科 1組16番 西本 澄子 「聞く力 心をひらく35のヒント」



絵本展・来場者アンケート結果

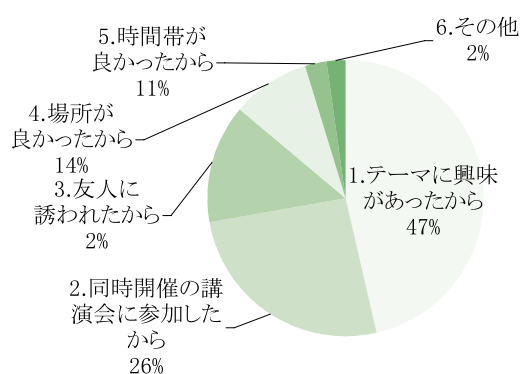
平成29年11月13日(月)～12月1日(金)まで、図書館において「展示会★世界の絵本が甲子園短期大学にやってくる！『絵本で知る世界の国々ーIFLAからのおくりものー』」が開催されました。(詳細は3頁をご覧ください。)

平成26年度から連続して歴史に関する公開講座を開催し、リピーターの方も多くご好評をいただいていたが、4回目を迎える今年は歴史から離れることになりました。絵本展という異なるジャンルへの挑戦でしたが、多くの来場者が喜んでくださいました。

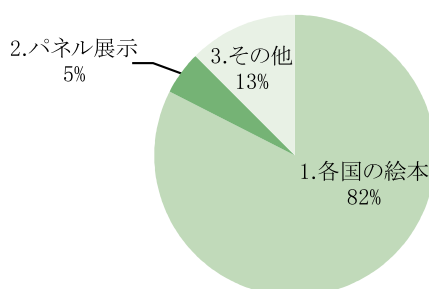
ここで改めてご協力をいただいた学院関係の方々に御礼を申し上げる共に、参加者の感想を抜粋してご紹介いたします。

図書館では今後も地域社会の文化・情報センターとして情報を発信していきたいと考えています。皆さまからのご意見・ご要望をお待ちしています。

●展示会にご来場されたご理由をお聞かせください。



●今回の展示会で印象に残ったものはありますか？



- ・ベビーカーで息子(7か月)と来ました。海外の絵本を見てすごく楽しい時を過ごせました。絵本でこんなに世界の広さを感じれて、すごいと思いました。
- ・幼稚園の絵本の読みきかせボランティアをしていますが、たくさんの外国の絵本におおいに刺激を受けました。ありがとうございました。
- ・とても良かったです。世界の絵本が見れるのはすごく幸せです。
- ・こんなに多くの世界の絵本がみれて良かったです。昼からの時間では短かったです。
- ・良い経験ができました。世界の絵本を見ることができてよかったです。子供も学生さんたちに読んでいただき楽しそうでした。
- ・貴重な絵本をたくさん見せて頂きありがとうございました。
- ・2歳の子供がいるので来てみたが、大人の私も楽しめた。普段読む絵本がどの国のものか分かっておもしろかった。
- ・文字、言葉がわからない分、純粋に絵から楽しめてとても楽しかった。
- ・絵本に様々な種類があり、面白く感じました。ありがとうございました。
- ・各地の絵本が見られる場は今までなかったため、とても刺激的でした。言葉はわかりませんが、絵本の特性である「絵での訴えかけ」を感じ、なつかしい気持ちになりました。
- ・ありがとうございました。各国の特徴がみられてよかったです。

あ・と・が・き

今年度も図書館でいくつかの行事を実施しました。大きな行事の一つは絵本展「絵本で知る世界の国々ーIFLAからのおくりものー」の開催です。これにつきましては学長の巻頭言と絵本展・開催報告をご覧ください。もう一つの行事は公開講演会です。第1回は料理研究家・土井善晴氏の「世界の料理と和食」、第2回は絵本作家・永田萌氏の「夢みる力」です。この講演会は教育研究センターが中心となって企画されたものですが、図書館と共催という形で開催されました。どちらも大変好評でした。図書館では、この講演会に合わせて、両氏の著作を何冊かずつ購入いたしました。おいしい料理の写真、ファンタスティックな絵、それを見るだけでも楽しい本です。ぜひ、手にとってご覧いただければと思います。

(館長・瀧上凱令)



編集発行

甲子園短期大学図書館

〒663-8107 西宮市瓦林町4-25

TEL.0798 (65) 3300 / FAX.0798 (67) 9101